

夏秋トマトの低段密植栽培で収量倍増！

夏秋出荷作型トマトで、低段密植栽培*¹とインタークロッピング*²を組み合わせることにより、収量を慣行の2倍にすることができました。また、基肥一発施用*³と日射量対応型極微量灌水装置*⁴の併用で養水分管理を簡易にしました。

*¹低段密植栽培とは

慣行の多段栽培に対して、2倍の栽植密度(4000~4500株/10a)で定植し、第3~4果房の上で摘心する方式です。新技術では、ベンチを利用し、インタークロッピングで低段密植栽培を3作繰り返すことで、収量を慣行の2倍にすることが可能です。

作型

作型	摘心段数	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
慣行	1	○			△		◎																								
新技術	1	○			△		◎				▼																				
	2						○		△		◎							▼													
	3												○		△		◎														

○播種 △鉢上げ ◎定植 ▼摘心 ■収穫

*²インタークロッピングとは

ひとつのベンチ内で、前作を栽培中の株元に、次作の苗を定植する方式です。



栽植密度

4000~4500株/10a
(ベンチ間150~165cm, 株間15cm)

定植苗令

播種後30~40日の成苗

培地

マサ土:バーク堆肥:ピートモス:パーライト
=1:2:3:1(容積比) 1株あたり6L

*³基肥一発施用

エコロン424:ロングショーカル:ケイ酸加里
=2:3:4(重量比)で、果房あたり窒素2gを定植時に植溝に施用します。

*⁴日射量対応型極微量灌水装置

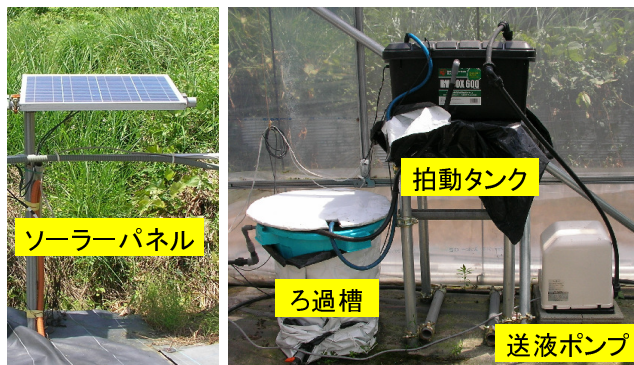
近畿中国四国農業研究センターが開発した、日射量に応じて灌水量を制御できる装置です。

収量 慣行(8~10t/10a)の2倍を実現！

表1 低段密植栽培の収量

作型	総収量 (t/10a)	可販果収量 (t/10a)	可販果率 (%)	果数 (個/株)	1果重 (g)
1作目	7.5	7.0	93.9	12.2	142.3
2作目	5.0	4.0	81.2	9.7	151.4
3作目	8.6	6.6	76.6	11.4	175.3
合計・平均	21.0	17.6	83.9	11.1	156.3

注)定植:1作目;2011年5月13日,2作目;6月21日,3作目;8月16日
4段摘心,栽植密度4444株/10a



留意点

- ①芽かぎや誘引作業が遅れないように管理します。
- ②3~5月, 10~12月はハウス2重被覆, 6~9月は寒冷紗被覆が必要です。

本研究は、平成20~23年度地域農業確立総合研究で、近畿中国四国農業研究センター、徳島県、愛媛県、山口県と共同で実施しました。